
モンスターハンター～少し不幸なハンターの日常～ 3hd

黒猫夢刹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

モンスターハンター〜少し不幸なハンターの日常〜3hd

【Nコード】

N9854Z

【作者名】

黒猫夢剎

【あらすじ】

少し不幸体質の村ハンターのクロウが奮闘する

ある時は飛竜を相手に双剣を持ち逃げ回り……時には半泣きになりながら依頼をこなす！？ へたれハンターと仲間たちの日常をどうぞ！

ルーミス村について（前書き）

ルーミス村の事を書き忘れていたために投稿しました

ルーミス村について

ユクモ村よりも遙か北にある森と海に囲まれ一年間桜が咲く不思議な村

火山などの場所に行く時の中継地点としての役割もあり賑わいがある
昔は夫婦のハンターがいたがあるクエストに行き亡くなった

リオレイア等の危険モンスターが現れた場合はドンドルマに救援を要請する

ドンドルマに行くには船で2日かかるがユクモ村よりも近いために
出稼ぎなどはドンドルマに行く若者が多い

村の特産品は桜を象ったアクセサリや村の果物で作られる果実酒

ルーミス村について（後書き）

……分かりにくいですかね？

主人公設定（前書き）

すいません……前作モンスターハンター〜少し不幸なハンターの日
常〜はログインパスを無くし……続けられなくなりました……です
ので前作を少し文字を増やし3hdでやり直そうと思います……誠
に申し訳ありませんでした

主人公設定

名前

クロウ・レイフオード

年齢

16

身長

170

体重

55

瞳色

紫

右

瞳

左目

藍

左

髪色

銀

髪

趣味

読書・昼寝

好きな物

のんびりとした時間

コーヒー

嫌いな物

自由を制限される事

紅茶

戦闘スタイル

双剣

人物説明

珍しいオツドアイな少年

一応、初心者ハンターをしているが……極度のヘタレ
主にきのこ狩りで生計を立てているがたまに討伐を頼まれて受けて
いる。

両親はある飛竜の討伐依頼で亡くなっている。

クロウがハンターになった理由は両親が討伐出来なかった飛竜を討
伐するため。

人と話す事が苦手で人と接する時は無表情、無言になる事が多いが
本来は口調が丁寧で明るく優しい少年。

混乱するとエセ関西弁になる。

少しトラブル体质で必ず一日一回はトラブルが起こる。

主人公設定（後書き）

……どうでしたか？少し変えてみました……書けなくなった間……
大剣ハンターから双剣ハンターに転職しました……

では心機一転宜しくお願いします

プロローグ（前書き）

どうも夢剝です

書き足しました……笑って頂ければ幸いです

プロローグ

ユクモ村より遙か北……海と森に囲まれた村「ルーミス村」そこより東にある渓流で一人の少年が絶対絶命に陥っていた……

どうも……僕はクロウ・レイフォードと……え？ 「設定」を見たから必要無い？ ……（泣）

僕は今、絶対絶命に陥っている……嘘じゃないですよ！？ 本気と書いてマジで！ ……何故そうなったかというと……

ー回想ー

「クロウ、依頼をしたいのじゃが」

村長ラドルフさんから特産キノコの採集クエストを請けたのです……

……何でも急に特産キノコを食べたくなったらしいです……

「……ギルドで飛竜の目撃情報を度々聞くのだが……」

……特産キノコが生える渓流にはリオレイアなどの大型のモンスターが現れる事が偶にある……

「大丈夫じゃよ！ そうそう遭遇したりせんて」

……行くの決定ですか！？ なんとか逃げなければ！

「……行かないという選択肢は……？」

「あるはずないじゃろ」

と半ば強制的にクエストを受けて進めていたのですが……急におとなしいケルビなどの動物が逃げたのです……

「ん？ ……急に動物が居なくな……！？」

空から緑色の飛竜「陸の女王」リオレイアさんが降りて来ました（泣）

ー回想終了ー

「いやいやいやいや！ 話が違っちゃる！？ ラドルフさんがそうそう遭わない言ったわな！？ ……まだリオレイアさんは気づいていない……よし！ そっつと……」

ペキッ

……今ゲームでいう？マークが出たような……

……ゆっくり振り返って……

「ギヤアアアー！！」

……目が合いました……（泣）

「……ギヤアアアー！ バレたで！？ アカン！ アカンで！ 安物装備の新米ハンターにリオレイアさんは無理やで！？」

……走って逃げるしか……ないわな……

「ギヤアアア」

なん……だと……プレス……だと……

巨大な燃える球状のプレスがクロウに迫ってくる……

「イヤーーー！（泣） 火炎弾は無理やて！ 止めてや！ しかも三発！？」

……こんがり上手に焼けました〜！ ってか？ 洒落にならへんで（泣）

「ギヤアアア！」

リオレイアの巨大な緑色の体が迫ってくる……

「走って来た！？ 安物装備やからプチって……！？」

ガッ

足下にあった小さな石に足を取られる

「うおっ」

転んだ顔の横に巨大な足が掠める

ギヤアアアア……

「今……顔……掠めたわな……そんな事……でもないけど逃げるん

「が先や！」

「リオレイアが走っていった方向の反対側に逆走する……追っては来ない……」

「助かった……！ 命があるって素晴らしい！」

「正気に振り返りを見回すと……」

「……此処は何処？」

「後ろは木……右は岩……左には木……冷や汗が流れる……」

「……もしかして遭難した？ ……これで三回目の遭難か（泣）」

「三日後」

「遭難して三日……誰も助けに来ない……特産キノコは生では無理だった……」

「え？ 肉焼きセットで肉を焼けば良かったのに？ ……走ってる最

中にポーチを落としたんです（泣）」

「僕の財布と一緒に……（泣）」

「あつ……意識が遠く……」

プロローグ（後書き）

どうでしたか？……前の小説を改良するので……難しい……

感想があれば宜しくお願いします

……辛口コメントなどは勘弁して下さい……ガラスハートなので……

…

第1話(前書き)

……頑張って修正中

第1話

……綺麗なお花畑だ……川もある……あ、父さんと母さんだ……いつ見ても暑苦しい位ラブラブだな……あれ？ いやいや……ありえへんて！ 数年前に

「ちよつと、ダーリン（ハニー）と飛竜の討伐に行ってくるから（はーと）」

って討伐に行つて帰つて来へんつたやる！ ……はっ！ 此処は天国か？ ……嘘やん……死因が「餓死」って……嫌や！ ……せめて……せめてラオシャンロンと戦つて死にたかつた（泣）

ん？ 父さん達が何か言つてる……なにになに？ 「まだ来るな？」

……父さん……そんなに僕の事を……「ダーリン（ハニー）」と新婚気分を満喫出来ないだろうが（でしよう）！？」……息子の死よりも……新婚気分ですか……（泣）

昔から父さん達は……ん？ 体が透けて……！？

「……にゃ！ は……お……るにゃ！」

「……だあ！ あのバカップル共が！」

ん？ 此処は？ ……体がヒリヒリするような？ ……ん？ 体が重い……？ ……目を開けるとアイルーのドアップでした……

「……何で？」

ークリルサイドー

僕はアイルーのクリル（雌）にゃ！ たまたま散歩していると何か

……顔色が悪いゲツソリしたのハンターを見つけたのにや……近付いて顔を見た時に顔が暑くなったにや……まさか一目惚れにや？
……放つて置けにやくて僕たちの棲家に連れて（引きずって）行つたにや……たまにガンツとかゴンツとか聞こえたのは秘密にや……外から来るハンターは珍しいので皆見に来たにや……あつそうそう、僕たちアイルーは基本的に優しいのにや！ にや？ ……攻撃される？ 盗まれる？ あれはハンターに危害を加えられるから身を守るための正当防衛にや！ 盗むのは猫違いにや！……話が脱線したにや……そうそうハンターを連れてきた話だったかにや？ ……とりあえず僕たちは拾って来たハンターを看病して二日目にや……まだ起きにやい……打ち所が悪かつ……だあ！ あのバカップル共が！」……怖かったにや……（泣）

ークリルサイド終了ー

……状況を確認しようか……えーと……
確かにオレイアに追われる 遠くに走って行った隙に逆走 迷って三日間さ迷う 空腹で行き倒れ アイルーが体の上にいる……うん、状況を確認終了……分からない……

「……とりあえず降りてくれ」

……空腹で乗られるとキツイ……

あれから僕の腹の上に乗っていたアイルーに降りてもらいました……いや、少し残念とか思っていないよ！？

「……どうして僕の上に乗っていた？」

うん、これ大事……始めは何事も話す事からこれ基本

「……えーと……にゃ？ 連れてきたのは良いのだけども……二日も起きて来にゃいから心配したのにゃ／＼／」

そうか……この桜色のアイルーは二日間も起きなかった僕を心配してくれていたのか……やっぱり嬉しいものなんだな

「そうか……ありがとう」

……どうしたんだ？ 涙目になって桜色から赤色に……あ、頭から湯気が出てる……

「……どうした？ 熱でも出たか？ ……すまない……ん？ 少し熱っぽいな……？」

何をしたかって？ 熱を計っただけだ。額と額で

「？～？～！？／＼／ふにゃあ～」ボタン

……何でだろう？ 何で倒れたんだ？ 看病疲れかな？

「……仕方がないな……ベットに運ぶか……」

ークリルサイドー

「……どうして僕の上に乗っていた？」

……言わなくちゃ駄目かにゃ？ 言つの恥ずかしいにゃ……／＼／

「……えーと……にゃ？ 連れてきたのは良いのだけども……二

日も起きて来にゃいから心配したのにゃ／／／

はっ、恥ずかしいにゃ〜！ うう……（涙目）

初対面で心配したっておかしいかにゃ？ 変なアイルーとか思われなかったかにゃ？

「そうか……ありがとう」お礼を言われたにゃ……なんか顔が凄く暑いにゃ／／／

ピッ

ん？ にゃんだろう？ ……！？ 顔がちち近いにゃ！？

「……どうした？ 熱でも出たか？ ……すまない……ん？ 少し熱っぽいな……？」

恥ずかしいにゃ／／／

「？〜？〜！？／／ふにゃあ〜」ボタン

……身体が暑くなって意識が遠くなったにゃ……

ークリルサイド終了ー

……僕が寝させてもらっていた場所に桜色のアイルーを寝かせて家の外に出てみた……あ、ちゃんと冷やしたタオルを頭の上に乗せてからだよ！？

「んー……此処はアイルーの棲家だったのか……」

ちらほらとアイルー達が見える……ほとんどが話をしているけど……

「あ、ハンターさん」

……黄色のアイルーに話しかけられた……話をするのが苦手だとい
うのに……

「……………どうも」

一応挨拶はしておかないとね……

「目が覚めたのにゃ！ 良かったにゃ！ ……クリルがハンターを
引きずって来た時はびっくりしたにゃ……今までアイルーが棲家に
ハンターを連れてきたことは無かったからにゃ」

……うん、話を聞くとあの桜色のアイルーはクリルという名前で、
僕はクリルさんに引きずられて来た……どうりで身体がヒリヒリ
するはずだね……

「……………そうでしたか……では僕はクリルさんに挨拶をして帰ります」
……そろそろ帰らないと死んだ事にされてるかも知れない……ラド
ルフさんは三日以上村に帰らないと死んだ事にするんだ……

「そつかにゃ？じゃあさよならにゃ！」

……家の中に入るとクリルさんが目を覚ましていた

「お帰りにゃ！」

ああ、久しぶりだなこの感じ……

「……ただいま」

それから自己紹介をし合っただけ……

「……僕はクロウ・レイフォード……だ」

以上……何を言えば良いか分からないんだよ……

「僕はクリルにゃ！ 僕の事はクリルと呼んで欲しいにゃ！好きな事は料理だにゃ！」

……終了

会話が持たない……そうだ……助けてもらったから帰る事を伝えな
いと……

「……僕は村に帰るよ」

……少し寂しいけどね……？ クリルが顔を隠して悶えてるけど？
……今度はガッツポーズしてる……

「……僕も付いて行くにゃ！」

……え？

ークリルサイドー

「……僕は村に帰るよ」

え？ 嫌だにゃ！ 気を失った時にベットに運んでくれたり、タオルを乗せてくれたりして、嬉しかったにゃ！……もっと一緒に居たいにゃ！ 頭とかもいつか撫でて欲しいにゃ……にゃははは／＼／＼……はっ！ 意識が違う所に行つてたにゃ……そうだにゃ！

「……僕も付いて行くにゃ！」
「クリームサイド終了！」

何で着いて来るのだろう？

「……何でだ？」

なんか凄い答が返つて来そうなんだが……

「もちろん一緒に居たいからにゃ！」

……まあ、嬉しいから良いか

第1話（後書き）

……あまり変わってないですね……

クリル設定（前書き）

クリルの設定です……変わってません

クリル設定

名前

クリル

年齢

2

性別

種族

アイルー

身長

不明

体重

……秘密にゃ!?

瞳

黄

毛並

桜

趣味

ひなたぼっこ

好きな物

クロウと話すこと

甘いもの

嫌いな物

クロウと話している最中に邪魔が入る事

クロウを傷つけるもの全般苦いもの

スキル

ネコの逃走術

招きネコの激運

ネコの体術

行き倒れのクロウを棲家に連れて（引きずって）行ったアイルー。

クロウに一目惚れをして着いてきた。

クロウの食事を作るのが好きな様子。狩猟に行くときはオトモとし

てクロウに着いて行き、影ながら助ける。クロウと行動したいとい

う思いからきているようだが……。

怒らせると恐くなるとかならないとか……。

結構話す事が好きで話が長くなる事もしばしば

……少し妄想癖があり、顔を赤くしたり青くしたりする事も……。

クリル設定（後書き）

……こんなアイルーが居れば良いですね……

第2話（前書き）

頑張つて修正中……

第2話

…それからクリルを引き連れて（？）村に帰っている最中なんだけどね……

鋭い爪で斬りかかってくる薄茶色の生き物を大剣でなぎはらう

「……………たあ！ ……よつと！」

更に飛び掛かってくるやつに双剣を降り下ろした

何をしてるかって？ ジャギイ相手に戦ってるんだ……え？ 何でかって？ それは……クリルに案内されてベースキャンプに戻る途中でジャギイに遭遇したからさ！ ……団体様で（泣）

「……………何体居るんだよ！ 倒しても倒しても沸いて来る………黒い悪魔かよ！」

ほら、台所とかに出没するやつ………1匹見たら50匹位は居るって言う………

「……………うつとうしい」

もうクリルと一緒に10匹は倒したよ………

「後6匹にゃ！ ご主人！」

……………ご主人って何度聞いても恥ずかしいな………え？ 何故ご主人って呼ばれてるかって？ 趣味？ 違うから！ ……棲家を出てすぐ

に「これからお願いしますにゃ！ ご主人！」って言われたんだ…
…僕はクローで良いって言ったんだけど…クリルいわく「ク、ク
ロウにゃんて恥ずかしくて言えないにゃ…」「らしい。…」「ご主
人」って言うのも恥ずかしいんじゃないのか？

「ご主人！ 危ないにゃ！」

ハッ！ 考えに浸っていたな…って…え？

「ギャア！」

爪で肩を斬られてチェーンベストに血が滲む

「…………痛つてえな」

どうしたかって？ ジャギイに後ろから爪で攻撃されたんだ…………考
えてる時に攻撃するのは卑怯じゃ無い？ 自業自得

ブチッ！

…………ブチッ？

「…………よくもご主人を！ 許さないにゃ！」

…………何か切れた音の発生源はクリルでした…………

「これでも喰らえにゃ！」

火の付いた大きなタルを僕を傷つけたジャギイに投げつけタルが爆
発した…………辺りには焦げた臭いが漂う…………

……大タル爆弾って普通スキル要るよな？ ……あ、クリルがジャギイに小タル爆弾を投げつけてる……

「まだまだにゃ！」

クリル専用のピッケルで向かってくるジャギイをなぎ倒したり、飛び付こうとするジャギイに小タル爆弾を投げつけたりしている……

……一方的にジャギイを攻撃してるよ……最後の1匹も倒れた……

「……ハッ！ ご主人！ 大丈夫かにゃ！？」

……ハッ！ って僕、忘れられてた？ ……いやいやそんなはず無い……よな？

「傷は痛いかにゃ！？ 血は止まったかにゃ！？ しんどくは無いかにかにゃ！？」

「……大丈夫だ」

……心配し過ぎてると思う……毒を受けたわけでは無いし……

「……よ……よ……良かった……良かったにゃ〜！ 死んじゃったかと思っただにゃ……」

いや、ジャギイの一撃位で死なないよ？ ……少しもってるな……まあ、心配してくれてたんだよな……つい笑ってしまうな

「……心配してくれて……ありがと……」

ナデナデ……感謝の気持ちを込めて頭を撫でてやる

「にゃ！？ ……にゃははは／／／」

……クリルの顔が赤くなってるな……でも嫌じゃ無いみたいだ……
本当にありがとう……

ークリルサイドー

ご主人の肩に血が滲む……

……ご主人が傷を付けられたにゃ……ジャギイに……

ブチッ！

僕の中で何かが切れたにゃ……

「よくもご主人を！ 許さないにゃ！」

それからは覚えて無いにゃ……気付いたらジャギイ達が倒れてたにゃ……何か忘れてるようにゃ……？

「……ハッ！ ご主人！ 大丈夫かにゃ！？」

にゃんか暗い表情をしてるにゃ……傷が痛いのかにゃ！？

「傷は痛いかにゃ！？ 血は止まったかにゃ！？ しんどくは無いかにゃ！？」

大丈夫かにゃ！？ 大丈夫かにゃ！？ 死んだりしないかにゃ！？

「……大丈夫だ」

……ほう！そによ笑顔はヤバイにゃ／＼／＼でも変に思われにゃいように……平常心……平常心

「……よ……よ……良かったにゃ／＼！死んじやったかと思っただにゃ……」

……噛んじやったにゃ（泣）

「……心配してくれて……ありがとう……」

なな、撫でてくれたにゃ／＼はううう……嬉しいにゃ／＼

「にゃ！？……にゃははは／＼／」

絶対顔が赤くなってるにゃ……

ークリルサイド終了ー

……少しはクリルに心を開いても良いかもしれないな……でもクリルを怒らせるのは止めておこう……

「……じゃあ帰るか」

「はいにゃー」

第2話（後書き）

どうしよう……書き方を忘れてる……練習しなければ

第3話（前書き）

……頑張ってます

第3話

…… やつとルーミス村に着いた…… 採集クエストのはずだったのに……
…… リオレイアに襲われるわ…… ポーチは落とすわ…… ジャギイの
団体に囲まれるわ散々だった……

「此処がご主人の村かじゃ！ 良い所にや〜」

ああ、空気は綺麗だし村の人は優しいからな

「おや？ クロウ！ 生きておったのか！ 3日も帰って来なかったから死んだとばかり思っておったぞ！」
「やっぱりね…… 3日以内に帰らなかつたから死亡扱いですか……」

ドンドルマに行ったりしたら…… お墓が作られるのかな？

「…… おかげさまでリオレイアに遭遇したが…… なんとか生きてる……」

…… トラブル体質のせいでもあると思うのですが…… (泣)

「そうかそうか！ 雌火竜の出現情報がクロウが渓流に行った後にこの村に入って来たのじゃ…… 無事で良かったわい！」

…… 遅くないですか？ 情報が来るのが……

「ん？ クロウ？ そこに居るアイルーはどうしたのじゃ？」

「ああ、こいつは「クリルですよ！ ご主人のオトモアイルーを

してますにゃ！」「……」

……クリル……人のセリフに被せないで下さい……

「そうかそうか！　ならわしの方でギルドにオトモアイルーの申請をしておくよ」

……オトモアイルーを雇うには普通はネコバアに仲介して貰ってギルドに雇った事を申請しなくちゃいけないのですが……

「……助かる」

申請は面倒な書類が多いのです……

「……家に帰るか……」

「楽しみだにゃ〜！」

歩いて数分……他の家よりも大きめの家が見えてきた……僕の両親が立てた家なんだけど父さんいわく

「俺とハニーの住む家はでくなけりゃあな！」

と言って一階に五部屋と広いリビング……二階にも三部屋がある家を造ったのだ……。

「やっと帰れた……一週間振りの我が家……だ？」

何か家の前で人が行き倒れてる……どないしよ！？
こう言うときはラ　フカード！

1、放置

- 2、助ける
3、見なかつた事にして逃げる

「……何？ この選択肢……！？ 1と3は人間としてやってはいけないと思うんやけど……となると2しかないやろ……」

「……大丈夫か？」

「……声を掛けてみる……」

「……は……腹が……」

痛いんか！？

グルルルル

「……」

もしかせんでも……腹が減つたんか？

「……腹が減つて……なんか食わせて……」

……仕方無いわ

「……立てるか？」

ルーナサイドー

やっと村に着けたぞ……！強いモンスターが出やすいと噂のルーミス村に行くために近道に森を通つたのが悪かつた……道が無かつた

んだよ……！

迷って五日…… やつと森から出られたんだが、でかい家の前で動けなくなつた…… もうダメかと思つた時

「……大丈夫か？」…… 天使の声が聞こえたんだ……

ールーナサイド終了ー

……何だろつこの食欲…… クリルに頼んで料理を作ってもらつたのだが…… みるみる内に積み上げられる皿の山…… 今月の食費が……

(泣)

「ングツ…… モグモグ…… ゴクン…… プハー！ いやー！ 助かつたぜ！ 五日も食つてなかつたんだ！ 地獄に仏とはこの事だな！」
…… そうですね…… 今月どうしよう(泣)

「…… そうか…… 良かったな……」

…… また特産キノコを採らなきゃな……

「あんたは命の恩人だ！ 何かしてほしい事はあるか！？ 俺が出る事なら何でもしてやるぞ！」

…… 何でも、ねえ……

「…… じゃあ帰れ」

帰ってくれるのが一番してほしい事だな

「……！…… それ以外でだ！」

……なんでだ!?

「……何故だ!?!」

この女……もしかして……

「その……な……強いモンスターが出ると聞いたから……来たんだが……住む所がねえんだ……だから頼む! 此処に済ませてくれ!」

……やっぱりな

「……却下だ」

これ以上食いつぶされてたまるか!

「何でもする! 家事……はできねえけど……出来る事なら!」

家族であるクリルに聞いてみるか……

「……クリルはどう思う?」

頼む! 否定してくれ!

「良いんじゃないかにゃ? 人が多い方が楽しいしにゃ!」

……クリル……(泣)

「あんたは良いアイルーだな!」

……満面の笑みだな……

「ニヤハハハ／＼／」

……仕方無いな

「……分かった……許可する……」

ハア、これから大変だな……

「本当か!？」

仕方無いだろ……クリルにまで言われたらな……

「……自己紹介だ……クロウ・レイフォード……」

「僕はクリルにゃ!」

「俺はルーナ・ブルーリアだよろしくな!」

……どうなる事やら……

第3話（後書き）

……前作の半分が終わった……

感想があれば宜しくお願いしますね

第4話（前書き）

……頑張ってます

第4話

……新しい同居人が増えた（強制？）のですが……

「金が無い……（泣）」

そう……お金が無いのです！ ……新しい同居人のせいで！

「どつしようか……きのこ狩りか……？ いや、それじゃ食費の足しにはなりませんね……」

ふらふらと町を歩きながら考えていると

「あれ？ クロウさんじゃないですか！ ギルドに何か御用ですか？ もしかして私に会いに来てくれたのですか？」

ギルド受付嬢のクレアさんに会った……って此処はハンターギルドか！ ……考え事をしていて気付きました……

「いや……少し考え事をしていたら着いただけ……」

どつちって食べていこうかと……

「そうなのですか？ 残念です……私に会いに来てくれたのかと」

……ギルド……ね……ギルド……そうだ！

「……何か良いクエストは無いか？」

出来れば簡単な物で！

「そうですね〜……では溪流に出現したドスジャギイ討伐クエストはどうですか〜？」

……難しいのが来た……

え？ ドスジャギイは簡単だろ？ ……まだハンターになってから討伐をしたことが無いんです！ 前は鬼ババ……コホント……師匠が倒したし……そうさ！ ヘタレさ！ ヘタレさ！ ヘタレの何が悪い！（泣）

「（クロウさんの泣きそうな顔……可愛いです〜！）」

「……いや……それは……」

何か寒気が……そんなことよりも出来ればご遠慮したいです……

「駄目ですか〜？ ……村の皆が困っているんです〜！（グスッ）
……お願い出来ませんか〜？ ……？」

涙目+上目使いつて……卑怯じゃ無いですか……？

「……分かった……」

……涙目+上目使いでお願いされたら断れる訳無いでしょう……

「……本当ですか〜！ ……ありがとうございます〜！（グスッ）」

……泣いてないか……これ？

「定員は二人です」……頑張ってください」

二人か……ルーナと一緒に行って貰おう

「……分かった」

「（やっぱりかっこいいです！ クロウさん／＼）」

家に戻って来たんだけど……ルーナの姿が見えない……

「クリル……ルーナの居る所を知らないか？」

……居なかったらクリルと一緒に行って貰うか？ ……いや……ク

リルがまたあんな風になったら……恐ろしい（トラウマ）

「にゃ？ ルーナ様かにゃ？ ルーナ様にやらお部屋に居るにゃ！」

そうか……行ってみますか！ ……つとその前に……

「ありがとう、クリル……助かった」

頭を撫でてやる……また悶えているけど……まあ……そんな癖があるのだろうな……

「（頭を撫でて貰えたにゃ！ 暖かいにゃ／＼／＼）……にゃ！ ……
…ニヤハハハ／＼／＼どう致しましてにゃ／＼／＼」

では……行ってみますか！

「……ハッ！ ご主人……気を付けて下さいにや……」

……気を付けるって……何にだろう？

「……ルーナの部屋……ここだな」

……何があるのか……

「……ルーナ……入るぞ？」

ガチャ

「おう！ クロウ！ 帰って来たのか！」

……壁一面にスラッシュユアックス……って危なっ！ ドアを開けた
途端に頭上からスラッシュユアックスが！

「あ！ すまねえ！ ……まあ……良いや……怪我してねえし」

……怪我してなかったら良いのか？

「どうした？ 何か用か？」

用があるから来てるのだが……

「……いや、ドスジャギイの討伐と一緒に来てくれないか？」

来てくれたら心強いんだけど……

「あ？ ドスジャギイの討伐だ？ あんな雑魚に付き添いが居るの

か？」

……言えない……討伐クエストを1人で行った事が無いなんて……

「……無理か？」

目の前が霞んでる……泣いて無い！ 情けなくて泣いてなんか無いからな！（泣）

「うっ／＼／（可愛い……） ……分かったよ！ 行けば良いんだろ！ だから泣くな！」

……何で顔を赤らめながら慰められてるんだ？

「……ありがとう」

……ますます赤くなった……？

「……クロウが涙目で頼んだからじゃ無いわよ！？ ……そ………そう！ ちょっとドスジャギイの素材が欲しかったのよ！ 本当だからね／＼／！？」

……あれ？ ルーナの口調が変わってませんか？

「……ほ………ほらさっさと行くわよ！」

手を捕まれ引きずられる……ズルズルと……自分で歩くから引きずらないで……お……お尻が……（泣）

「じゃあクリル………行ってくる」

……後ろから「行つてらっしゃいにゃ！」と聞こえたが返事をする事が出来なかった……引きずられてるせいで……あれ？……狩場まで引きずる気ですか？

ーオマケー

「（……クロウが頼ってくれた！ フフツ……頑張るわよ！ 私！ 強い所を見せて私と一緒にしか狩場に行けないようにするんだから！ フフフフ……）」

「（……行っちゃったにゃ……僕も行きたかったにゃ……でも帰ってきたときに美味しいご飯を作って待ってたらご主人喜んでくれるかにゃ！ また頭撫でてくれるかにゃ？……ニヤハハハハ／／／／）」

「（クロウさん……大丈夫でしょうか？ 誰と行くのでしょうか？ まさか女性なのではないのでしょうか？ 私が行ければ良かったんですけど……戦えませんか……心配です……！）」

……さつきからお尻をぶつけてるから痛い……ルーナは鼻歌歌ってるから気づいてないし……早く着いて欲しいです……（泣）

ーオマケ終了ー

第4話（後書き）

……入れ忘れてたので

クリア設定（前書き）

前作では無かった受付嬢クリアの設定です

クレア設定

名前

クレア・リスター

年齢

15

身長

155

体重

……言いません／／／

瞳 右 黒

左 黒

髪 黒

趣味

クロウを見つめること

好きな物

クロウ

クロウと話すこと

嫌いな物

クロウの悪口

クロウに近付く人

ルーミス村のギルドの受付嬢

口調がのんびりしていてとても泣き虫

たまにクロウの泣きそうな顔を見て嬉しそうにしている時があるとか……

因みにクロウがギルドに来ると必ずクレアが接客している

何でも

「クロウさんのクエストを受諾するのは私だけなのです〜！」らしい……

クロウに一目惚れしたらしい……

クリア設定（後書き）

……ヤンデレになりそうな気がするのは気のせいでしょうか？

ルーナ設定（前書き）

ルーナ設定です……クロウが双剣に変更した為に武器をスラッシュ
アックスに変更しました

ルーナ設定

名前

ルーナ・ブルーリア

年齢

18

性別

女

種族

人間

身長

160

体重

……ほう、死にてえのか？

瞳

漆黑

髪

漆黑

趣味

鍛錬

好きな物

甘い物

強いモンスターと戦う事

クロウで遊ぶ事

スラッシュアックスの手入れ

嫌いな物

料理を作る事

弱いものイジメ

戦闘スタイル

スラッシュアックス

クロウが村に帰って来た日にクロウの家の前で行き倒れになっていた少女……男口調だが、照れたり混乱した時は女口調に戻る

クロウの家で居候中

何でも「命の恩人に恩返し」をするためらしいがする気配がない。かなりのスラッシュアックスのマニアで部屋には所せましとスラッシュアックスが飾られている……スラッシュアックスの事を話し始めると何時間も話し続ける

本人いわく

「マニアじゃねえ！ スラッシュアックスが好きただけだ！」らしいが……

助けてくれたことで好きになっている

ルーナ設定（後書き）

……今回はこれで終わりです

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9854z/>

モンスターハンター～少し不幸なハンターの日常～ 3hd

2011年12月31日03時56分発行